

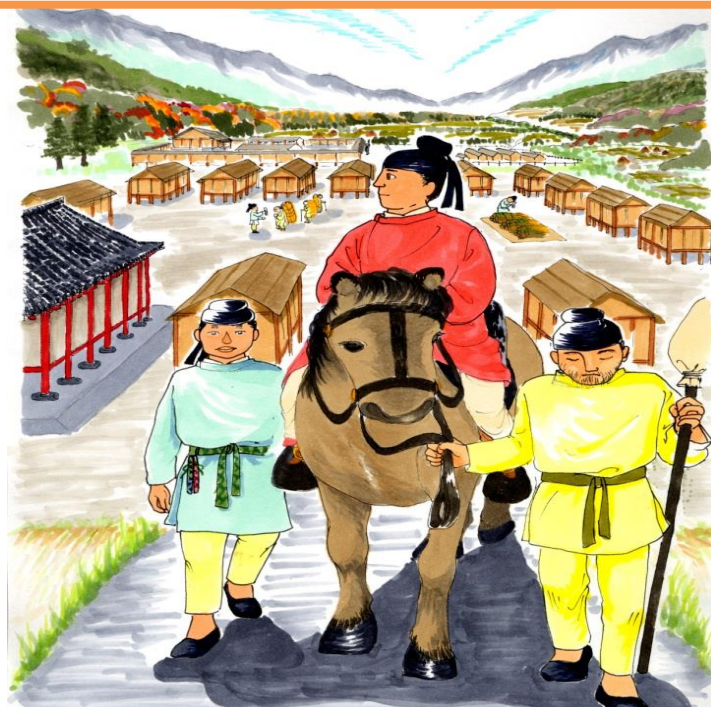
古墳(古代のリーダーたちのお墓)

座光寺には、77基の古墳があったことが知られています。飯田市全体では524基の古墳の存在が知られ、そのうちの約15%が座光寺にありました。現存する古墳は20基弱で、長野県史跡に指定され県下でも最大級の大きさを持つ高岡1号古墳は6世紀の初めに造られた前方後円墳、新井原12号古墳は5世紀後半の帆立貝型古墳、それ以外は5~6世紀代の円墳です。また、高岡1号古墳と畦地1号古墳は、渡来(朝鮮半島)系の石室を持つ古墳と考えられます。

座光寺地域は、自然河川などの水利に恵まれた稲作により安定した生活が恵まれていたことに加え、当時のヤマト王権と深くかかわった馬文化の発展により、大きな勢力を持った豪族が存在し、そうした有力者の墓として古墳が造られました。

座光寺地域の古墳時代における繁栄が、その後の奈良時代の古代伊那郡の役所(恒川官衙)の成立につながっていきました。

古墳群の存在は、私たちの暮らす座光寺が、その当時から住みやすく、文化の香り高い地域であったことを物語っています。



今後の取り組み

国史跡になった恒川官衙遺跡については、飯田市教育委員会が中心となって平成26、27年度に保存管理計画を策定し、以後、この計画に基づいて、地域の皆さんと協議しながら、史跡公園の整備を含めた保存活用が進められています。また、周辺にある旧麻績学校校舎、南本城城跡、古墳群などの歴史資産を含めた歴史文化ゾーンを「2000年浪漫の郷」として、地区民、市民の皆さん、そして、地域外から訪れる方々にとっての憩い、交流、学習の場となるよう地域と行政が協働して整備活用を図っていきます。